

OISA NEWS

OITA
INFORMATION
SERVICE INDUSTRY
ASSOCIATION

2016. 4

68

発行：大分県情報サービス産業協会
会長 森 秀文
<http://www.oisa.jp>
編集：広報委員会
事務局：大分市城崎町2-6-31
(大銀コンピュータサービス棟内)
TEL (097) 537-5918
FAX (097) 534-4545
印刷：佐伯印刷株式会社

大分県情報サービス産業協会



CONTENTS

平成27年度 新年例会	2
来賓ご挨拶	3
平成27年度 特別講演会	4
第24回 サウズコンテスト	6
社会貢献活動(別府大分毎日マラソン)	8
平成27年度 第2回OISA視察研修旅行	8

岩戸寺 (国東市)

平成27年度 大分県情報サービス産業協会 新年例会開催

平成27年度の新年例会が、1月27日（水）に大分市のトキハ会館にて、ご来賓並びに会員企業多数出席の中、盛大に開催されました。

最初に森秀文会長より新年の挨拶がありました。

引き続き、大分市副市長・右田芳明様、九州経済産業局地域経済課長・中原信隆様からのご挨拶を頂戴し、特別講演へと移りました。本年は、矢野大和様から「日本人の財産」という演題でご講演をいただきました。



森 秀文 会長

会長挨拶

只今ご紹介をいただきました大分県情報サービス産業協会の森でございます。1月も随分と過ぎてしまいましたが、改めまして、あけましておめでとうございます。

今年の元旦は本当に近年になく穏やかな天候に恵まれてまして、元旦の日の出を拝むことができました。

一年の計は元旦にありとこのようなことも言われておりますが、どうかこの2016年が穏やかな一年でありますことを願うところでございます。

さて、昨年の大分県はご存知のようにOPAM（大分県立美術館）、あるいはJRおおいたシティそして東九州自動車道全線開通それからデスティネーションキャンペーン等々、色んなイベントがございまして新たな交流を見出し上々の経済効果が現れました。

そして今年は申年でございます。高崎山効果も加えて、またインバウンドもさらに期待しながら、この経済の活性化あるいはまた、地域経済の好循環といえますか、そう言ったものを是非活用しながら元気な大分県を期待したいなと思っております。

ところで昨年、私どもの業界の話でございますが、いくつか振り返ってみますと、ソフトバンクのペッパー君が販売をされました。開発者用に300台、個人向けに1,000台ということでございますが、販売したその日に即時完売というようなことで大変盛況であったようでございます。また、IoT推進コンソーシアムこれには1,000社が設立総会に出席するなど、大変盛況ぶりがかがえたようでございます。

また、最近キーワードとなつてまいりましたフィンテックはこの重要性を昨年から盛んに言われるところでございます。そのような中、昨年10月からはマイナンバーの通知が始まりました。この1月から順次運用開始ということでございますが、元を辿れば皆さんご存知の通り1970年代の大平内閣の時代から、納税者番号として幾度も議論をされた国民総背番号制であります。しかしながら、一般の国民の皆様にはどうもメリットが見えにくいというような話もあるわけでありまして。

情報漏洩問題、その対策の遅れ、特に一昨年ありましたベネッセの4,000万件の情報漏洩、それから今年の5

月でしたか年金のデータ漏れ、また、マイナンバーのなりすまし不正利用が行なわれるんじゃないかとか、あるいは実際は分散管理をしておりますけれども一元管理されるんじゃないかというような不安もあるようでございます。

そしてなによりも企業経営者の取り組み姿勢、認知度の低さというのがあるようございまして、年末の着手率というのは大変低いようでございます。各地、各団体で行なわれている企業説明会、こういったものに早急に参加をして、正しい理解をしながら進めていくことが必要であります。また、マイナンバー制度の安全・安心な立ち上げに対しまして、私ども業界と致しましては、しっかりと手助けをしたいものであります。

これからも、業界は桁違いの進化の速度で進んでいくものと思われまふ。野村総合研究所の分析によると、10～20年以内に日本で働く人の49%は人工知能（Ai）やロボットで代替できるようになるらしく、その数は約2,500万人にもものぼるとの事です。

また、米国の未来学者、人口知能の世界的な権威でありますグーグルのレイ・カーツワイル氏の唱えております説があります。このコンピュータが人の知性、人を超えるというその時期が、2045年に訪れるということございまして、これを技術的特異点、シンギュラリティとこのように言うそうでございます。こういったことは本当に早いペースで進んできている気が致します。

ところで、当協会は「産」の皆様方とはもちろんですけれども、「官」・「学」の皆様との連携も年を追うごとに強化され、この協会の重要なポイントとなっております。技術力は無論でございますが、社会貢献活動にもその効果が評価されているところであります。改めまして、協会会員の皆様、そして関連団体関係の組織の皆様方にご支援、ご協力をお願いするところでございます。

結びになりますが、会員各社、そして関連団体の皆様方にとりましてこの2016年が夢を実現する年であってほしいと心から祈念を致しまして簡単でございますが挨拶とさせていただきます。

来賓ご挨拶



大分市副市長
右田 芳明 様

皆様、新年明けましておめでとうございます。

大分市副市長 右田芳明です。

本来であれば佐藤樹一郎市長がご挨拶を申し上げるところですが、本日は全国市長会で東京に出張しております。市長からくれぐれも皆様方には宜しくとのことでお祝いのメッセージを預かって参りましたのでご披露させていただきます。

本日は大分県情報サービス産業協会の新年例会が、このように盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。皆様方には

輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また森会長を始め役員並びに会員の皆様方におかれましては平素より情報化の推進や情報通信基盤の強化など本市におけるICT社会の発展を支えていただいていることに対しこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

先程、森会長のご挨拶にもございましたが、ご案内の通り本

年1月からマイナンバー制度がスタート致しました。この制度は社会保障や税・災害対策分野での行政手続きに限定されており、事務の効率化や市民生活における利便性の向上が大いに期待されているところでございます。

しかしながら、その一方で市民の情報セキュリティに対する関心が一段と高くなっているのが現状でございます。

本市と致しましても第3次大分市地域情報化計画を策定し、ICTの利活用により、何時でも何処でも誰でもが安心して快適な生活を送ることが出来る街を目指すとともに、情報セキュリティに関しても異論のないよう万全を期して参りたいと考えております。

少子高齢化・人口減少の中で地方創生を実現していく為にはICTの利活用に係る皆様方の豊富な知識と技術が不可欠でございます。今後ともICTを活用した豊かな地域社会の実現に向けご支援ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びになりますが大分県情報サービス産業協会の今後益々のご発展とこの一年が皆様方にとりまして希望に満ちた素晴らしい年となりますよう心から祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。



九州経済産業局地域経済課
課長

中原 信隆 様

みなさんこんにちは、ご紹介いただきました九州経済産業局 地域経済課中原でございます。

本来であれば私どもの経済部長がご挨拶申し上げますところですが、所用がありまして私が替わって挨拶をさせていただきます。

新春を迎えまして謹んでお慶びを申し上げますとともに新年例会が盛大にこのように開催されますことを心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては長年にわたりまして大分県地域の情報化それから情報サービス産業の振興に多大な貢献をされています。森

会長を始め歴代関係者の各員の ご尽力に改めて敬意を表する次第でございます。

先程から森会長より話が出ておりますIoTという言葉が新聞等を含めて、私どもの経済産業省のいろんな書類の中にも必ず出てくる時代になりました。新たな製品なり新たなサービス、ビジネスそういったものがIoTを中心にこれから生まれてくると思っています。

昨年の10月に経済産業省を中心にIoT推進コンソーシアムが出来ています。産学官が連携してIoTに関する技術開発、実証それから新たなビジネスモデルを構築していこうという為の体制としてこのコンソーシアムが出来ており、会員は1,000を超えていると聞いています。こういった中から新たなビジネスが出てくると期待されていますし、IoT推進ラボという組織も出来ています。モデル事業の創出であり、規制改革などをここを中心にご検討していただく環境整備がなされているところでございます。

来年度予算、補正予算が通っています。来年度予算におきましても未来投資による生産性革命というのが政策の一丁目一番地となっていて、IoT・ビッグデータ・人口知能ロボットによる変革の推進というのが大きな柱になっています。

私ども九州経済産業局も今年度からIoT関係のセミナーを開きながらいろんな形で情報提供を皆様にさせていただき、集客すれば必ず200人位となり、企業の方の関心も非常に高いと思っています。引き続き我々も力を入れて参りたいと思っています。

せっかくの機会でございますので私どもの情報政策の取組みにつきまして、お手元の資料でございますけれどもご紹介させていただきますと、中小企業のIT系は、引き続き大事と思っています。

各県ごとのよろず拠点・相談体制もとりながら対応しているところでございます。それから情報セキュリティに関しましてもIPAさんと一緒に先日も大分市内でセミナー等開催させていただきました。引き続き企業様の意識を高めていただくことを含めて対応していくところでございます。

サイバーセキュリティの対応、それから人材育成の観点からセキュリティキャンプを開催しています。皆様方のお手元に配布しています「サイバーセキュリティ経営ガイドライン」の資料がございます。これは内閣府のサイバーセキュリティ戦略の具体的な取組みの一つとして経済産業省で策定されたものです。是非、経営者の方々にサイバーリスクというものを認識していただき、このガイドラインを活用していただければと思っています。

先日の補正予算で成立しています物づくり補助金の資料がお手元にあります。その裏面には活用した企業の数が載っています。非常に多くの企業が物づくり補助金を活用しています。補正予算で3年程使っていますが、この補助金で初めて国の補助金を活用した企業もかなり出ています。IT関連の設備投資にもこの補助金は使えると思っています。おそらく2月に入って公募開始になります。補正予算・来年度予算これから審議されますけれども来年度に向けて様々な政策が打ち出されて、しかも募集がこれから開始される時期となります。

是非そういった情報にアンテナを高くしていただければと思っています。ちなみに九州経済産業局のホームページに公募情報や公募に係る説明会の情報が必ず出ていますのでご確認いただければ幸いです。

景気も緩やかな回復基調ということでございますけれども、なかなか力強さが無いということでございます。その鍵になるのが投資ではないかと思っています。アベノミクスを全国に浸透させる為、それから経済の好循環を確実にさせる為にも投資をお願いいたします。今回法人税率を20%台に引き下げる税制の改正を行うことになっていきます。投資に係る予算等もついています。是非、企業の皆様へ設備の投資・技術の投資・人への投資（その中には賃金もはいると思います）をしていただき、それらを積極的に繋いで経済の好循環を出来るだけ全国津々浦々に広げていくことが出来ればと思っている次第です。

最後になりますが大分県情報サービス産業協会の益々のご発展と本日ご臨席の皆様方の今年一年のご健康・ご発展を祈念致しまして、甚だ簡単でございますが私の挨拶とさせていただきます。

今年一年よろしくお願い致します。ありがとうございました。

平成27年度 特別講演会

演題「日本人の財産」

日時：平成28年1月27日(水)

16:00～17:30

場所：トキ八会館 ローズの間

講師：矢野大和 氏

プロフィール

- おおいた観光大使
- 大分合同新聞文化教室 講師
- 大分県人権問題講師団 講師
- 佐伯市宇目 鷹鳥屋神社 宮司
- 県南落語組合 会長



皆さんこんにちは。

色んなところでお話をさせていただいてますけど、今日のようにプレッシャーがかかる講師依頼をしていただいたのは久しぶりでございます。

去年400回の講演に行かせていただきました。何で一年間に400回も講演を受けるのかなって色々考えまして、結論が出ました。当たっていたら拍手をしてくれますか？それは、お礼が安くて済むからです。沢山もらおうなんて思ってませんで、多くの人に会えるということの方が財産だと思って、人間は人間から元気を貰うんだなと思ってたくさんの人に会えることがすごく嬉しいです。

お国訛りっていいですよ、国の宝ですよ。ちなみに一番振り込め詐欺にかからない県というのがあります。振り込め詐欺の一番被害の少ない県。トップは沖縄県です。二番目は鹿児島県です。理由は、詐欺の連中は沖縄弁、鹿児島弁が喋れないからです。だからすぐニュアンスで判るんだそうですね。ということはお国訛りは国の宝ですので、私も大分弁大好き。大分弁が一番いい言葉だなと思うのはなんといっても、「むげねえ」という言葉、いいですよ。独特のニュアンスです。「一寸ずり」というのも大分の人でないと使わないと思います。東京でタクシーに乗りましたら数珠繋ぎになりましたんで、思わず「運転手さん、今日は一寸ずりですね」と言いましたら、「は？」と言われてまして、これで方言だと言うことが分かりまして、「すいません、大分では

交通ラッシュに掛かった時は一寸ずりって言うんですよ」と言いましたら、「東京では言いませんよ」冷たい一言でした。「じゃあ何て言うんですか」もっと冷たくなるんです。「渋滞と言うんです」

大分の言葉の中でいいなと思うのは仲間を許す、という言葉があるんですね。たとえば、ちょっと人に迷惑をかけた時なんていうのは、その人に聞こえないように陰でこそつと言いますと、その人の罪が消えるという言葉があります。こんな使い方です。「あんしはなー、あげえあるん」笑っていただいて有難うございます。それで罪が消えるんですね。「あんしはなー、あげえあるん」、「あの人はよく遅刻しますねー」と言われたら一言「あげえあるん」と言います。「あの、奥さんが四人目ですよ」と言ったら「あげえあるん」と言われます。そして、これはもう新年早々のテーマなんですけども、こう言ったら儲かるという言葉があります。別れしなにこう言わせることです。「あんたにもう一回会いてえなあ」という一言です。「あんたにもう一回会いてえなあ」と言ったら、すべてうまくいきます。「いやーここ面白れえとこやなあ、また来るで」と言ったら、大分の観光産業まず大丈夫です。「この料理美味しいですね、また食べたいですね」と言ったら、レストランは大丈夫です。またあなたに会いたって、ご縁をお繋ぎするっていうことでご商売は出来ているんだと思うんですね。

私、会いたい人は誰かっていうと、よく笑ってくれる人、笑顔でいる人、それと、会ってて元気をくれる人です。喋っている人間に元気をあげる聞き方というのがあるんで、ちょっと今日皆さんやってみませんか。相手に元気をあげる聞き方、難しくないです。人の話を聞くときは、とりあえず傾く。難しいですか？

なぜ私が元気になるか、理由は「そういう考え方もありますね」と頷ける人だからです。「そういう考え方もありますね」と頷ける人となかなか頷かない方がいるんです。頷かない方はいきなり「私は出来ないと思います」と言うんですね。最初から、「出来ない・無理だ・止めとしましょう」と言いますと、そこでブチッと情報が切れてしまいますので、「やり方次第では出来るかもしれない。そんな考え方もあっていいですよ」と言ったら当事者もここで提案させていただきますとなる筈です。

滝川クリステルさんが、2020年東京オリンピックのプレゼンテーションをしました。凄い数の外国の方が日本にやってきます。日本に来て、外国の方が一番驚くことは何か？財産は何か？人のサービスです。おもてなしの心。日本ですげーなあって思っている人いっぱいいます。まず一番驚くことは、なんとウォシュレット。トイレ。日本のトイレが一番きれいですよね。公共施設が凄くきれい。なぜ公共施設がきれいか。それは、よくぞ戦後の教育の中に、掃除の時間というのを残してくれた。外国の方々は、子どもに掃除をさせるのは労働だということで、させないところが多いそうです。日本は教育ですよ。自分の教室をきれいに。自分の道具を大事にするなんてのは立派な教育ですから。掃除の時間を残したことで美的感覚が育った。たとえばここに空き缶一つあったら、必ず誰かが拾ってゴミ箱

に入れる。この感覚が身についている。ちっちゃい時の教育ってすごいですね。

滝川クリステルさんがすごいことを言いました。それは、もし貴方が東京で財布を落としてみてください。その財布は一週間以内で貴方の手元に戻ります。それが東京です。凄いいと思いませんか？なんか財布が返ってくるというのは私たちにとっては当たり前ですから、これを何でプレゼンで言おうと思ったのかと思ったらそれは、あの企画を考えたコーディネーターの人が外国の人だったそうです。日本人にとっては当たり前でも世界は驚くことですから。と言われて入れ込んだと聞いて、へえ私たちは当たり前と知っていることがすごいことなんだな～って分かることができますよね。

問題は財布を拾ったということではありません。なんで私たちは誰も見てないところで拾ったお金を警察に届けるか？これがおばあちゃんの教育です。良かったら日本人の財産ですから拍手をしてくれますか。なぜ私たちは、誰も見てないところで拾ったお金を警察に届けるか。答えは、お天道様が見てるからです。

お天道様が見ているという事が私たちの財産で、「おいっお前、悪いことなんかお天道様が見ちよるんだよ、お前、お天道様は全部お見通しじゃ」こうやって育てられているから、悪いことができない。凄いですね。

復興の国、日本。この頃でしたら地震の後、自然災害の後、ちょっと前なら間違いなく戦争の後。明治維新があったとき世界に追いつこうとなりました。信じられない速度で世界に追いつく事が出来ました。四季があるから、読み書き・ソロバンがみんな出来るから、文脈と文脈を読むことが出来て、想像力豊かな国だから。想像力豊かというのは俳句ですよ。われわれは行間を読んで理解をする。

終戦後、進駐軍の中には、通訳が出来るということで豊前市のジョージ・アリヨシさんが通訳に入りました。有名な話ですよ。「おまえの国はもう滅んだな、着る物もなければ食べる物も無い、住む所も無い、この国は二度と復興が出来ない。」と言われたそうですよ。悔しかったので食べ物配る所を見せました。行列がずらっと並んでいて誰一人割り込む人がいません。「おまえの国は何で整列するんだ。他の国なら暴動が起こる。略奪をして暴動が起こるのに、なぜそんなことしないんだ。」ジョージさんは指差して言いました。「お天道様が見てるからです。」

子供達が靴磨きをしました。ジョージさんが靴を出し、出来上がりました。「ありがとうございます」ジョージさんがその子に代金を払い「歳はいくつかな」「私は7歳です」。かわいそうに思ったジョージさんはパンをあげました。その子は一言「先程お金をいただいでるんで、もう貰う理由がありません」。こんなちっちゃな子が冷静としている、こんなちっちゃな子が毅然としている。「いや君の喜ぶ顔が見たいから食べなさい」「ありがとうございます」って言ってその子はパンを握りしめました。でも食べなかったです。なぜ食べなかったか。「なぜ食べないの」って聞きました。「家に帰ったら、まり子という4歳の妹がいます、パンは妹にあげます」と言った瞬間に驚きました。世界の民族で7歳の子

供が自分の空腹を我慢して、4歳の妹に上げようとする民族はほかにあるのか。日本人の底力はちょっと自分を犠牲にして誰かの為につくし喜んでくれたら自分も嬉しいという事。半端な民族でない、間違いなくこの民族はすぐ復興するだろうと言い張りました。20年かかりません、13年後に東京タワー、その6年後にオリンピックを成功させ、またオリンピックを迎えようとしています。アメリカは間違いなく私たちの絆、人を思いやる心にメスを入れたために権利と自由「あなたは何をしてもいい」これが自由「あなたは何を言ってもいい」これが権利。でも私たちは権利の前にしなければいけない事がある、自由の前にしなければいけない事がいっぱいあるとまだ守ってます。それはいざとなった時に出ます。

明治天皇の歌があります。

「敷島の 大和心の ををしさは 事ある時ぞ あらはれにける」

事ある時に自分を犠牲にして誰かの為に。まだまだ捨てたもんじゃねえなあ。

宮崎では口蹄疫で29万頭の牛と豚を殺しました。この合言葉は「宮崎で起こった口蹄疫は宮崎で片付ける」って事で29万頭の牛と豚を殺した。ちょっとの犠牲で誰かのために尽くす。

これを世界の人達がみたらスゲー国だなんて言われる行為でした。

私たちお宮、宮司は6月30日と12月31日に大払いを1,000年前からやっております。日本は沢山の神様がいて話し合っってそれによって決めていこう、神々の頃から民主主義です。明治政府になった時、五箇条の御誓文の1つが「広く会議を興し、万機公論に決すべし」です。

「もし情報にかかわっているなら話し合おうや。情報交換してまず人間関係仲良くして話し合おうや」

これで出来上がっている。

祝詞を詠んで参りますと、人間は間違いをたくさん起こす、神様も起こすとあります。たくさん間違いを起こしたら、この祝詞を詠め、そして祝詞を詠むことによって、罪が落ちていくとあります。

水の神様が運び、川の神様が運び、今度は海の神様が飲み込み「気」になって根の国、底の国に持って行く。底の国に持って行った「気」を最後は「まかしちよけ」という神様がおるんです。その神様のお仕事があるのです。その神様のお仕事は「物忘れの神様」です。6月30日と12月31日に日本国中を飛び回って、間違いをキレイにお払い事をするのが私たちの仕事です。1,000年以上前から人間は間違いごとをするんです。

領く勇氣は過信からきている。領かなかつたら戦争になりますよね。日本は平和主義なんじゃねえかなと思います。

個人的な話になりますけど、話が聞きたければまたいつか呼んでいただければ。

こんな話で良かったと思ってませんけど、この一年間宜しくお願いします。

ご静聴ありがとうございます。

(総務委員会)

第24回

サウンズコンテスト

日時：平成28年1月30日（土）13：30～17：00

会場：ホルトホール大分 小ホール

ON THE COMPUTER

今年で24回目を迎えたサウンズコンテストOn The Computerは、1月30日（土）に大分市のホルトホール大分小ホール（1F）で開催されました。

今回の応募曲は74名104曲を数え、その中から厳選なる予選を通過したフリー曲部門17曲、トリニータ応援歌部門5曲の合計22曲で本審査を行いました。

好評だったUstreamによるLIVE中継を今回も行い、審査会場の生の映像を配信したところ、全国の方々からご視聴いただき本コンテストへの興味を引くことができました。

また、年々増加する県外からの参加者に感謝の気持ちを込めて今回も大分銘菓ざびえるをお土産としてお渡ししました。



森会長挨拶



SPATIOスペシャルライブ



会場の様子



インタビューの様子



表彰式



グランプリ 富安優杜さん

審査結果

	氏名	年齢	地区	タイトル
グランプリ	富安優杜	21	神奈川県	herbst
フリー曲部門一般の部 1位	Aero	33	東京都	Gimmick
フリー曲部門一般の部 2位	宗野晴彦	56	大分市	夢幻 ～前兆と啓示～
フリー曲部門一般の部 3位	宮本真紀	48	神奈川県	The Day
フリー曲部門学生の部 1位	前迎有紀子	21	神奈川県	サザンクロスへの憧憬
フリー曲部門学生の部 2位	齋藤維吹	19	東京都	まじる
フリー曲部門学生の部 3位	井口大夢	13	栃木県	The jazz
トリニータ応援歌部門 最優秀賞	大嶋優	19	大分市	Get Chance! TRINITA
審査員特別賞	伊藤彩子	27	北海道	小さな人魚の絵日記

今年もインターネットにより全国的に作品の応募を募ったことで、100曲を超える応募数となり、レベルの高い激戦となりました。その厳しい競争を勝ち抜き、みごとグランプリに輝いたのは、神奈川県の富安優杜さんの作品“herbst”でした。

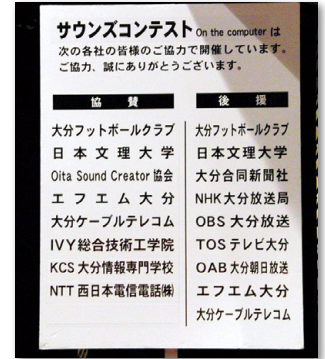
富安氏は「herbstはドイツ語で“秋”という意味であり、秋の自然の壮大さや冬へと向かう儚さをイメージして作った」とのことで、コンセプト通り非常に素晴らしい出来栄でした。



審査委員長講評



入賞者記念撮影



協賛企業看板

トリニータ応援歌

今回も、大分フットボールクラブの後援による「トリニータ応援歌部門」を実施しました。今シーズンはJ2への復帰を願い、活躍を期待する気持ちのこもった楽曲が印象的でした。

その中で最優秀賞に輝いたのは、大分市の大嶋優さんの作品“Get Chancel TRINITA”でした。この曲は、3月13日（日）に開催された今シーズンのホームゲーム開幕戦前に大分フットボールクラブへ贈呈されました。

当日は、マスコミ各社や観衆が見守る中、ご当地アイドル「SPATIO」に歌っていただいたことで大変盛り上がりしました。

この曲は、向こう一年間、大分スポーツ公園総合競技場（大銀ドーム）で開催される大分トリニータのホームゲームのBGMとして使われることになっています。

観戦に行かれる方は、試合前に流される音楽にも是非ご傾聴下さい。

最後に、応募曲の編集、LIVE映像の配信、会場設営等で大変ご苦労をおかけした日本文理大学関係者様、また、今回も多くの後援・協賛をいただきました各社様にも紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。（イベント委員会）



最優秀賞受賞 大嶋優さん



贈呈の様子



SPATIOによる曲披露

審査委員

	氏名	審査歴	備考
審査委員長	田村 洋彦	20回目	大分大学名誉教授（音楽科）・東アジア作曲家協会顧問
審査委員	久保田 栄子	14回目	Oita Sound Creator協会 事務局長
審査委員	河野 敦朗	3回目	大分県立芸術文化短期大学 作曲コース教授
審査委員	眞名井 龍一	1回目	大分県情報サービス産業協会 事務局長

第65回別府大分毎日マラソン

社会貢献活動参加

平成28年2月7日(日)に第65回別府大分毎日マラソン大会が開催されました。

当協会からの給水ボランティア参加は今年で5年目となり、今回は23社206名が参加しました。当協会からの参加者は増加の一途をたどり、他のボランティア団体を規模で圧倒するようになりました。給水場所も全15か所のうち4か所を任せられるようになり、担当する役割も給水のほかに、スペシャルドリンクの提供やトイレへの誘導などが加わりました。

今回は、リオデジャネイロ・パラリンピック(9月)の視覚障害者マラソン最終選考を兼ねた大会でもありました。ボランティアには、視覚障害者選手にスペシャルドリンクを手渡すという作業も加わりましたが、健常者に負けじと走る姿に、声援も一段と大きくなり、みな感動をもらっていました。

ゴール間近の給水場所では、給水作業自体は比較的余裕があるので、みんな懸命に声援を送っていました。丁寧にあいさつを返してくれるランナー、フラフラになりながらも歩みを進めるランナー、もう一頑張り与时計を睨みつつラストスパートをかけるランナーなど様々ですが、いつも元気をもらうことができます。

総務委員会では、来年も引き続きマラソン給水ボランティアを実施します。多くの方にご参加していただき、この感動を味わっていただきたいと思います。

(総務委員会)



平成27年度

第2回 OISA 視察研修

日程：平成28年2月5日(金)
 視察先：阿蘇ハーブファクトリー(熊本県阿蘇市)
 アートキャンディ株式会社
 熊本工場(熊本県阿蘇郡)
 参加：13社21名

視察内容

阿蘇ハーブファクトリー

阿蘇ハーブファクトリーでは、初めに室内にて、薬草研究家の井澤館長より、知っておくためのなる薬草薬木について説明を受けました。館長の一押しは生活習慣病が気になるときに使われてきたとされる、薬草の王様「よもぎ」でした。

説明を受けた後は館内の薬草・薬木・香草・香木を見学しました。



館長より説明を受けている風景



阿蘇ハーブファクトリーにて

アートキャンディ株式会社 熊本工場

アートキャンディ株式会社熊本工場では、ケーキなどのの上に乗っている装飾菓子の製造について職員の方から説明を受けた後、実際に工場場で装飾菓子を製造しているところを見学しました。

工場には100人弱の職員(殆どが女性の方)がいて、商品形成は全て手作業で行われており、1人前になるまでには3年掛かるとの事でした。(企画委員会)



職員の方より説明を受けている風景



アートキャンディにて